

提言～福井市の既存資源の活用に向けて

6つのプロジェクトの提案～

1、足羽川・足羽河原利活用プロジェクト

福井市中心部を流れる足羽川左右岸堤防のソメイヨシノは、日本一の桜並木として知られ、足羽山の桜と対で「日本のさくらの名所100選」にも選ばれており、市民が誇れるシンボリック的存在になっています。平成16年7月の福井豪雨で大きな被害を受けましたが、激甚災害対策特別緊急事業として大規模な公共投資のもと、様々な河川環境の整備が行われ、現在では河川敷部分に、芝生広場や遊歩道、船着場といった親水施設や駐車場などが整備されています。しかしながら、このような整備状況はあまり知られておらず、利用も一部の市民にとどまっていると考えられます。また、せっきくの河川施設も、船着場などの親水施設に堆積した土砂の撤去や定期的な除草などの維持管理が十分とはいえず、河川関係予算が減少していくなかで、住民や団体との協働による維持管理が必要不可欠になっています。これらの観点から、以下の3つの取組みを提案します。

(1) 河川敷でのイベント実施による新たな集客の目玉づくり

現在別の場所で行われている既存催事の誘致を含め、地元農産物などの直売イベントが足羽河原で恒常的に行われる環境を整備し、新たな集客の目玉づくりを行う必要があると考えます。参考事例として後述する徳島市の『とくしまマルシェ』は、地元の若い農家がこだわりの農産物を出展し、四国中から毎回2万人を集客する成功事例となっています。

また、普段閉鎖されている河川敷の駐車場施設は、イベントなどの開催内容に合わせて開放されているだけで、せっきくの機能が十分に発揮されているとはいえません。通常の来訪者に対し柔軟に開放するほか、遊歩道をカラー舗装、あるいはボードウォーク（boardwalk＝木の板張りの遊歩道）化して、イベントなどが開催しやすい環境づくりと河川敷のさらなる魅力向上を図り、市民の利用を引き出す仕掛けを検討すべきと考えます。

【想定される取組み主体】福井商工会議所青年部、(社)福井青年会議所、福井市

□参考 とくしまマルシェ（徳島市）

徳島産のこだわりの農産物や加工品をパラソルショップで販売するイベント。徳島市の新町川ボードウォークで毎月最終日曜日に開催。マルシェとは、フランス語で「市場」を意味する言葉で、本場フランスのようなおしゃれで楽しい空間を演出。



(2) 河川敷・堤防などの活用促進に向けた情報発信強化と環境整備

地元住民の活用促進に向けて、芝生広場や船着場など河川環境の整備状況や河川敷で行われたイベントなどこれまでの利用実績、サイクリングやジョギングなどの際の利用のしかたなどについて情報発信をさらに強化し、河川の利活用に対する市民県民の認識を高める必要があります。特に、近年の健康志向からウォーキングやジョギングなどを行う人は多く、その環境として足羽河原は最適であることから、ルートや距離を示すサイン整備やマップの発行など、より利便性をより高める仕掛けも求められます。

また、住民の利活用が進めば、それが河川に対する愛着の醸成にもつながり、今以上に住民が河川の維持管理に関わっていく積極性も期待できるのではないのでしょうか。行政に依存しない、理想的な河川管理を目指す観点からも、活用に向けた情報発信やさらなる環境整備を強化すべきと考えます。

【想定される取組み主体】福井県、福井市、(財)福井観光コンベンション協会

(3) 堤防法面への花植栽による観光“素材力”の向上

足羽河原の桜は、日本一の桜並木として、開花時期には県内外からの集客機能を持つ観光資源でもあります。平成23年度のふくい春まつりの開催期間中の駐車実績は、観光バスが100台以上、マイカーは5,000台前後を数えます。

そこで、シバザクラや水仙、彼岸花など四季折々の花を幸橋と桜橋間左岸の堤防法面、桜並木の下部に植栽し、既に植栽されているアジサイ、菜の花の開花期とも連続性を持たせることで、桜の開花期以外にも一面に広がる花を鑑賞できるエリアとしてアピールし、足羽河原を今よりも長期間、集客できる花の名所としてグレードアップを図るべきと考えます。

【想定される取組み主体】ライオンズクラブ、ロータリークラブ他民間ボランティア団体

□参考 富士芝桜まつりの風景
(山梨県富士河口湖町)



2、浜町界限利活用プロジェクト

浜町地区は、福井市中心部に位置し、古くから商いや芝居興行などが行われ、明治以降は料亭街として発展するとともに、外国人講師のための異人館や時鐘楼が建てられていた歴史のある界限です。近年は、福井市都市計画マスタープランや福井市景観基本計画で「足羽川に隣接する特性を活かした『歩いてみたくなるおもてなしゾーン』」として位置付けられ、地区の歴史と、足羽山、足羽川をのぞむ景観を活かし、高級感あるおもてなしの空間として、道路修景、電線類ソフト地中化、ガス灯設置などの景観が整備されました。最近、市内でも注目度の高い地区となっており、ハード整備も進んでいることから、以下の3つの取組みを提案します。

(1) 既存建物の再利用や保存活動によるロケーションの維持強化

浜町界限を形成している古い建物が取り壊され、消失していく現状を踏まえ、歴史あるエリアとまちなみを維持、復活させていくため、地権者や賃借者とのコミュニケーションを強化してその動向を的確に把握するとともに、条例制定など法整備も行いながら建物の再利用や保存を進め、ロケーションの維持強化に力を注ぐ必要があります。

【想定される取組み主体】こみちこまち浜町推進会議、福井市

(2) 集客の核となる機能として拠点施設の整備

まちなか観光の拠点として大野市では『結ステーション』を整備し、大野城から七間朝市などへの導線が整備され、入込客を維持しています。

そこで、浜町地区内に、地元の集会場機能も含めた観光客を受入れする拠点として、明治年間に実在した異人（洋）館の復元など新たな施設整備を行い、この施設に福井駅周辺の各拠点と足羽川、足羽山をつなぐ役割を担わせるべきであると考えます。



□異人館の様子

【想定される取組み主体】こみちこまち浜町推進会議、福井市

(3) 飲食・物販機能の強化に向けたテナントリーシングの実施

これまでのハード整備の効果を活かし、観光客を含めた来訪者の受入れ体制を充実させるため、界限で不足している土産物販売店や料理店など商業サービス機能を強化するソフト事業が求められます。具体的には、地元のまちづくり団体と連携して、地権者の意向を的確に把握し、活用されていない既存建物の保存と活用に向けたテナント誘致を行い、出店者に対する家賃補助制度の創設も含め、有機的で連続性のあるまちなみ形成を目指して取組む必要があります。

【想定される取組み主体】こみちこまち浜町推進会議、福井商工会議所

3、養浩館庭園界限利活用プロジェクト

国の名勝養浩館庭園は『日本の歴史公園 100 選』に選ばれ、最近では、米国の日本庭園専門雑誌『数寄屋リビング（ジャーナル・オブ・ジャパニーズ・ガーデニング）』の日本庭園ランキングで 2008 年度以降 3 年連続で第 3 位となり、全国の日本庭園の中でも高い評価を得ています。また、福井市立郷土歴史博物館に隣接し、歴史語り部の案内サービスもあって、団体客を中心に観光客の入込数が伸びている歴史文化施設でもあります。尚、平成 22 年の福井県観光客入込数によると、福井市は歴史文化目的の入込が最も高い割合となっています。

しかし、住宅街に位置し、庭園と博物館のみが立地しているため、回遊性が少なく、エリアとしての魅力は十分とはいえない部分があります。そこで、JR 福井駅から福井城址を経由して徒歩 15 分の距離にあり、まちなかにおける有数の歴史文化施設を活かしていくために下記の取組みを提案します。

(1) 福井駅から養浩館庭園までのアクセスをわかりやすくする取組み

福井市観光案内所のスタッフが説明しにくく、観光客にとってアクセスがわかりにくいといわれる養浩館庭園までのルートについて、JR 福井駅から福井城址、内堀公園を経て庭園までの歩道や道路の一部にルートを示すカラー舗装などを行い、県外客でも徒歩で容易にアクセスできる環境整備を行うべきであると考えます。

また、周辺公共施設などに無線 LAN アクセスポイントを設置し、多種多様な Wifi 端末・ユーザ用途に対応できるインターネット接続機能とエリア情報を発信する仕組みを組み合わせた公衆無線 LAN サービスを展開し、来訪者の利便性を高める取組みも必要です。

【想定される取組み主体】福井市

(2) 利用時間の改善など駐車場の利便性向上

駐車場が養浩館庭園の開館時間に合わせた開放となっており、開館前に到着した県外観光客が駐車できないことから、利用時間の延長や無人式の駐車場ゲートの設置など開館時間以外も幅を持たせて駐車場を利用できるように改善すべきです。

また、バスなどが余裕を持って駐車できる総合的な駐車場整備も今後の課題として検討すべきです。【想定される取組み主体】福井市

(3) 入館料クーポン化の実施

庭園や博物館の入館料は、現地で現金支払となっていますが旅行エージェントなどが取扱う団体旅行では不便な面もあることから、他の観光施設では一般的となっている旅行エージェントとのクーポン契約ができる体制を整え、旅行事業者などの利便性を高めることで、さらなる団体観光客の増加を図るべきであると考えます。

【想定される取組み主体】福井市

(4) ガイドの育成、界限一帯のライティングなど話題をよぶ新たな仕掛けの実施

養浩館庭園の人気の高さの要因として、ボランティアガイドの存在があります。そこで、地区内で活動する落語家を起用した新たな案内ガイドを育成・配置し、ガイドのバリエーションを広げて観光客の受入れ体制の充実を図るべきと考えます。

また、これまで庭園及び隣接のお泉水公園内のライトアップが行われていますが、ライティングデザイナーを起用して、専門家による庭園内だけでなく、界限一帯の本格的なライティングを仕掛け、趣のある空間づくりを半常設的に実施することで、先述の仕掛けも含め多彩な受入れ体制を構築し、話題性のある手法で養浩館庭園のPRを図る必要があります。

【想定される取組み主体】宝永まちづくり委員会、福井商工会議所

□参考 国宝・彦根城築城400年祭イベント
『光の祝祭 彦根城ライトアップ「ひこね夢灯路」』
の風景



□参考 ライティングデザイナー 内原智史(うち原 さとし)氏 1958年生まれ。六本木のクリスマスイルミネーション、表参道ヒルズ、羽田空港ターミナルの照明、金閣寺、銀閣寺、平等院鳳凰堂のライトアップなどを手がけ、『光の魔術師』と呼ばれる。建物を照らさず本質を照らす事を信念とし、建物だけでなく周囲の街を

自らの足で入念にリサーチし照明方法を決める。

(5) 新たな土産品の開発と喫茶など休憩施設や特産品販売機能の整備

福井市内には旧所名跡にゆかりのある土産品が少ないことから、庭園や越前松平家など歴史にゆかりのある土産品の開発を行い、販売を通して庭園などを強くアピールする必要があると考えます。

また、観光客から要望のある土産物など特産品の購入機能の新設やロケーションを生かした喫茶などの休憩機能をエリア内に充実させるために、周辺施設との連携や関連事業者の参画を促進する取組みが求められます。

【想定される取組み主体】(財)福井観光コンベンション協会、福井商工会議所

(6) 地元住民と連携した美化活動と情報発信の取組み

地元住民と連携しながら庭園及び周辺にホタルや鈴虫を放虫する活動などエリア内の環境美化活動を通して界限の話題づくりを進め、地元で養浩館庭園などの良さを改めて認識し、さらに親しんでいただくことで、地元から界限の良さを外部に強く発信していく仕掛けが必要であると考えます。

【想定される取組み主体】宝永まちづくり委員会、福井市

4、食分野における受入れ環境づくりプロジェクト

福井の食は外部からも高い評価を受けており、特に鮮度の良い魚介類は、迅速な商品流通の仕組みによって提供され、地元住民は日々当たり前前に味わうことができますが、これは福井の売りとして他地域と差別化できるところです。そこで、この福井の売りを観光客などが体験できる環境づくりが必要であると考えます。また、代表的な食材として越前カニがありますが、季節が限定されることから、イカなどの魚介を新たな食の目玉として打ち出す取組みなどを提案します。

(1) 日本海の新鮮魚介を味わう環境づくりの推進

福井市中央卸売市場の設備、機能を活用し、場内の一部を観光客などに開放することで、鮮度の良い、品質の高い福井の魚介類をその場で味わい、購入できる環境づくりと、JR福井駅周辺に福井の魚介を買うことのできる機能整備を提案します。イメージとして、東京都中央卸売市場の1つである築地市場や小売業者の集まりである八戸市の八食センター、金沢市の近江町市場などが挙げられます。

【想定される取組み主体】福井市、福井市中央卸売市場協会



□参考 青森県八戸市「八食センター」 □参考 福井市中央卸売市場関連商品売場棟試験開放の様子

(2) 新たな食の目玉づくりへの取組み

福井市の沿岸部で年間通して獲れるイカに着目し、なかでも付加価値の高い「活イカ」や通常は市場に出ない「未利用魚」、県外で認知度の低い「水カニ（ズボガニ）、ガサエビ」などの地元食材を、越前カニに続く食の目玉として打ち出すため、観光客などに提供できる環境づくりやPRへの取組みを提案します。

【想定される取組み主体】福井市中央卸売市場協会、福井商工会議所

(3) 新たな体験型商品の開発による観光モデルの構築

来訪者が選んだ地元の食材を定置網体験や農産物の収穫体験で調達し、宿泊施設で調理、あるいは自ら調理・提供するなど、海岸部周辺の滞在型観光の促進する観光商品を開発し、新たな福井の観光モデルとして県内外へのPRと販売促進活動を提案します。【想定される取組み主体】(財)福井観光コンベンション協会

5、一乗谷朝倉氏遺跡ブランド化推進プロジェクト

一乗谷朝倉氏遺跡は、全国でも稀な国の特別史跡、特別名勝、重要文化財の3重指定を受け、評価の高い歴史、文化資産です。また、最近「交通広告グランプリ2011（主催；ジェイアール東日本企画）」でグランプリに輝いた福井市のPR施策『一乗谷 DISCOVERY PROJECT』や携帯電話のCM効果などで全国的に注目度が高まり、入込客も増加しています。そこで、これらソフトの取組みに加えてハード面の仕掛けを既存施設の更新時期に合わせて展開するなど遺跡のブランディングを推進するための取組みを提案します。

（1）山城の整備など環境整備による新たな魅力づくり

城跡は眺望に優れ福井平野を一望できる環境にあることからそのロケーションを生かし、展望箇所を設置や登山道の整備など山城整備を行い、新たな魅力を付加させます。また、用地買収など、整備に本格着手できる環境づくりに向けて早急に取り組む必要があります。

【想定される取組み主体】福井市

（2）福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館の機能整備

建物の更新時期をにらみながら資料館を移転し、遺跡との相乗効果を発揮できるような施設整備や展示などの手法改善に取り組む必要があります。尚、資料館の展示にあたっては、県内に実在する戦国時代の資料を集約し、戦国期の総合資料館として強く打ち出していくべきです。

【想定される取組み主体】福井県

（3）土産品・飲食店舗の誘致などによる観光客受入れ体制の強化

関連事業者の参画を引き出しながら、朝倉氏遺跡にふさわしい土産品や食事メニューの開発を行うとともに、これらの商品などを扱う店舗などを既存建物を活用して遺跡エリアに誘致し、観光客を受入れするバリエーションを強化することで、さらなる入込客の増加を狙うことが必要と考えます。

また、遺跡エリアに隣接する東郷地区は、歴史ある用水路を生かした景観が整備され、風情漂うまちなみを形成し、一乗谷と東郷を結ぶサイクリングのモデルコースも設定されていることから、様々な行為が規制される遺跡エリアを補う拠点として位置付け、連携を深めることで受入れ体制の充実を考えるべきです。

【想定される取組み主体】福井市、(財)福井観光コンベンション協会、福井商工会議所

6、観光PR事業プロジェクト

自らの志向や目的に応じて主体的に観光地などに関する情報を収集し、旅行するという近年の旅行スタイルの変化に対応し、観光情報を効果的に提供していくため、下記の取組みを提案します。

(1) 話題性のある効果的な観光キャンペーンの実施

今後の高速交通体系の整備による行動範囲の拡大を見据え、“オール福井”体制で情報発信、PRに臨む必要があります。特に、北陸新幹線開業に向けて、所要時間の短くなる北関東、長野などに重点を置いたプロモーションを強化するとともに、JR金沢駅からの二次アクセスを整備し、誘客を強化する取組みが必要不可欠です。

また、スマートフォンやタブレット端末など多種多様なWiFi端末にも対応した効果的な観光PR活動も求められます。

さらに、発信力や創造力、影響力のある人材をシティプロモーションのプロデューサーとして起用し、東京、大阪などの人口集積地に向けた特色ある情報発信を仕掛けていく必要があります。

【想定される取組み主体】福井県、福井市、(財)福井観光コンベンション協会

(2) (財)福井観光コンベンション協会への情報一元化と情報発信機能の強化

スポーツも含めた催事など様々な情報を(財)福井観光コンベンション協会に集約することで、協会にアクセスすればワンストップで県内の観光や交通手段などの情報が容易に得られる環境や良質な地元情報を発掘し、それらを効果的に組み合わせで発信するといった情報活用の体制づくりを行い、福井市の情報を中心とした県内情報案内の拠点とします。将来的には宿泊施設の予約などの機能を追加し、福井県のポータルサイトになりうる組織を目指すべきです。

また、ソーシャルネットワーキングサービスなどを活用した取組みなど、その将来性と有効性を見極めながら今後の広報活動の多様化に対応していく必要があります。【想定される取組み主体】福井市、(財)福井観光コンベンション協会

(3) 既存観光案内パンフレットなど広報物の有効活用

県や市町、観光団体などで作成されている様々な観光案内パンフレットなどをより有効に活用するために、公共施設だけでなく、事業所などの協力も得て、県内外から人が訪れるような施設、建物に広く設置し、費用をかけて作成された広報物を有効に利活用する取組みを行うべきであると考えます。

また、広報ターゲットと目的を明確にするなかで、広域的な総合パンフレットの作成なども必要と考えます。

【想定される取組み主体】福井市、(財)福井観光コンベンション協会、福井商工会議所